



【職場】 兵庫県神戸市
株式会社アシックス
サステナビリティ部 環境チーム

現在 兵庫県



赴任国 ニカラグア



【赴任地】 マサヤ県ニンディリ市
【職種】 青少年活動
【派遣期間】 2013年1月～2015年1月

サッカー少年が、 ボールを追いかけ続けられる未来に向けて。

池田 和道さん 株式会社アシックス サステナビリティ部 環境チーム
Kazumichi Ikeda

入社17年目を迎える池田和道さんは、株式会社アシックスの創業哲学「健全な身体に健全な精神があれかし」を表すブランド・スローガン「Sound Mind, Sound Body」を自身の存在意義として体現し続けている。

株式会社アシックスに勤める池田さんは、同社のボランティア休職制度を利用し、JICA海外協力隊（JOCV）としてニカラグアでスポーツ指導をした経験を持つ。復職後は生産部門を経て、現在のサステナビリティ部環境チームに異動し、サプライチェーンの脱炭素化をリードする。一見バラバラに見えるそのキャリアだが、実は「スポーツを通じた社会貢献」という一本の線で強く結ばれていた。

池田さんの現在地

正解なき道を拓く

「今の仕事には唯一の正解がなく、すぐ何かしないと明日会社が潰れてしまう、というものでもありません。ひたすら未来を見据えて、新しい価値を切り

拓いていく。そこに大きなやりがいを感じています」

サステナビリティ部環境チームは、主に環境面におけるグローバルな課題解決を担う部署である。池田さんは、目の先の利益を追うのではなく、長期的な視点で会社の利益に貢献する現在の立場に深い意義を見出している。

取り組んでいる課題の一つが、製品の製造過程で発生するCO2排出量の削減だ。その約8割が材料調達や製造といったサプライチェーン上流で発生しており、関係者との交渉や合意形成が池田さんの役目である。サステナビリティの理想を語るのではなく、かつて生産現場で培った知見とネットワークが、大きな強みとなっている。

大きな成果をあげたのは、環境省のプ

ロジェクトとして主導し策定した「グリーン調達方針」だ。「一方的にお願いするだけでは、動いていただけません。現場を尊重し、立場も理解した上で、どういうふうに伝えたら納得していただけるか、常に考えて行動しています」コンサルタントの知見も借りながら、同社が目指す環境負荷低減の方向性を示し、



サプライチェーンの脱炭素化プロジェクトにて、海外工場の太陽光パネル視察の様子



配属先「国家警察青年育成センター」のサッカー部のメンバーと



配属先の体育授業でバスケットボールの指導をする池田さん



ニカラグア1部リーグ(当時)「ユベントス・マナグア」でプレーする池田さん

サプライヤーがどのようなアクションをとるべきか模索し続けている。

JOCV時代

自ら問い、動いた日々

池田さんは、入社4年目で、青少年活動という職種でJOCVに参加した。「昨日まで一緒にサッカーやっていた子が、今日は来ないなと思ったら、ピストル強盗で捕まっていたとか。そういうことが普通に起こる場所だったんです」ニカラグアの不安定な社会情勢によって薬物や暴力のリスクにさらされる10代20代の若者を対象に、スポーツを通じた更生支援に奔走した。

「スポーツをしながらルールを守るとか仲間をリスペクトするっていうことを学んでいくと、顔つきが変わってくるんです。それでも、支援だけでは及ばない場合がある。もっと根本的な、教育や経済状況とかがすごく大事だと分かったことは、大きな経験でした」幼い頃からサッカーに親しんできた池田さんは、日本なら当たり前前の生活基盤の欠如がもたらす悲劇を目の当たりにし、スポーツ

で社会に貢献することの難しさと重要性を痛感した。

現職参加の強みを活かし、本会社に掛け合っ、スパイクなどの練習に必要な用具を送ってもらったこともある。「自分で考えて行動し、目に見える成果を出すという経験を2年間で数多く積み上げられたと思います」同社のボランティア休職制度は、池田さんに「挑戦する機会」を与えてくれた。そして今、その経験が組織の成長に不可欠な力となっていることを、池田さんは自らの仕事を通じて証明している。

未来へのビジョン

夢の続きを次世代へ

「小学校の文集に『プロサッカー選手になる』って書いてたんですよ。そしたら、ニカラグアでなっちゃったっていう(笑)」

嘘のような話だが、池田さんはニカラグアでサッカー選手としての実力を認められ、プロリーグでプレーした経験を持つ。立場上、無給のプレイヤーではあったが、日本サッカー協会を通して正式に国際移籍したプロ選手だ。「ネット検

池田和道さん プロフィール

大学卒業後、2009年に株式会社アシックス入社。営業職を約3年半務めた後、同社のボランティア休暇制度を利用してJICA海外協力隊に参加。2015年に帰国後、フットウェア生産統括部を経て、2021年よりサステナビリティ部へ異動。

索すると、中南米でプレーした日本人選手として名前が出てくるんですよ」と照れ笑う池田さん。その姿からは、サッカー少年なら一度は夢見る想いを実現させたのには実力や努力だけではなく、好きなことをとことんやり抜く冒険心や好奇心があったことが窺える。

「外でサッカーができないとか、マラソン大会が中止になるといった事態が、気候変動によって現実のものとなっています。スポーツブランドにとって、環境問題は切実な課題です」池田さんは今、実務家として、ビジネスの仕組みの中に持続可能な未来を落とし込もうとしています。かつての自分のように「プロサッカー選手になりたい」と純粋に夢見る子どもたちが、何の制約もなくボールを追いかけられる当たり前前の未来に向かって、現場の最前線を走り続けている。

池田さんへのエール!

エグゼクティブアドバイザー
吉川美奈子さん



強みはデリバー（成果を出す・完遂する）力

サステナビリティはきれいごとだけで語れず、現場をどう変えていくかというところが一番難しいのですが、「まずは自分がやってみる」という姿勢で、「自分たちもやらなければ」と周囲を巻き込んでくれています。ニカラグアで培ったバイタリティで、これからも周りをぐいぐい引っ張っていかれると期待しています。